

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 1 回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（仮称）策定懇談会
開催日時	平成 2 7 年 7 月 2 3 日(木) 1 3 時 0 0 分～1 5 時 0 0 分
開催場所	高松市役所 3 階 3 2 会議室
議 題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏（仮称）について (3) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	
出席委員	井原会長、嘉門副会長、板倉委員、佐野委員、柴田委員、神内委員、滝川委員、常川委員、徳増委員、三井委員、宮本委員、森山委員、好井委員、吉田委員、頼富委員
傍 聴 者	0 人 (定員 5 人)
担当課および連絡先	政策課（839-2135）

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

議題（１）会長・副会長の選任について。

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（仮称）策定懇談会設置要綱第 5 条第 2 項の規定により、委員の互選により会長が選任され、副会長は会長が指名した。

（会長 井原健雄 委員、副会長 嘉門雅史 委員）

また、会議は、原則として公開とすることを決定した。

議題（２）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏（仮称）について。

【別添資料により、「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏（仮称）」について事務局から説明】

（会長）

第 1 回目の会議でもあり、まず、質問があればまとめて伺いたい。

（委員）

事業所アンケートの回収率(35.1%)を、もう少し上げるべきではないか。

また、圏域全体の経済成長のけん引とあるが、経済成長に結びついた事業案があまり出ていないのではないか。

（委員）

高松市を中心とした取組を考えればよいのか、連携市町を中心とした取組も含めて考えなければならないのか、検討すべき範囲がよく分からない。

会議経過及び会議結果

(委員)

資料の事業案は、中心市と連携市町が明確なビジョンを共有した上で、提示しているか。

(委員)

提示されている事業案は、これからの議論によって、変更される可能性もあるか。

(事務局)

アンケートについては、今回の結果を分析し、確認の必要があるところは確認していく。再度アンケートをするということは考えていない。

(会長)

アンケートの活用方法は、全体の傾向を見る程度でよく、これだと思うところがあれば、直接ヒアリング等をすればよい。

再度アンケートを実施するよりも、この懇談会での意見を参考に、産業・業種を絞って直接ヒアリング等をする方が、効率的・効果的である。

(事務局)

この会の役割が何であるかということが、共通した疑問点のように思われたので、まずは、今年度、高松市が策定している3つの計画について説明したい。

本市では現在、平成28年度を始期とする次期総合計画の策定を進めている。総合計画は市の最上位計画であり、基本となる計画である。

その総合計画と並行して、人口減少対策に主眼を置いた総合戦略を策定している。総合戦略は、国を挙げての取組であり、現在、全国の自治体が本年度内を目途に策定を進めている。

これら2つの計画に加えて、連携中枢都市圏ビジョンを策定しているという状況にある。

本市の総合計画は、現行計画から既に、人口減少対策の視点を持って策定しており、総合戦略と目指すところは同じである。そこで、基本計画である総合計画をしっかりと作り込み、総合戦略は、そこから必要な部分を抜粋して、まとめていく予定である。

広域圏としての取組である連携中枢都市圏は、中心となる市が、魅力ある広域圏をつくるという意思表示をした上で、主導的に、各市町に連携する事業を提示し、連携の幅を広げていこうとするものである。

連携中枢都市圏ビジョンには、大きく、経済成長、都市機能、生活関連機能の3つの柱があるが、経済成長、都市機能に関しては、新しいメニューでもあり、事業の掘り起しがうまく進んでいない。当懇談会において、これら3つの柱立ての中で、どのような事業が考えられるかについて、御意見をいただき、ビジョンに反映していきたいと考えている。

(委員)

総合計画を見ても市のビジョンが明確に伝わってこないと感じるのだが、そのような中で連携市町との取組がうまく進むだろうか。

(事務局)

連携中枢都市圏の取組は、中心となる市が進めていくものであり、連携の相手方となる市町には、どの事業について、中心となる市と連携していくかを考えていただくことになる。本日は、各市町の職員の方にも出席い

ただいっており、本日の議論をこれからの連携につなげてもらいたいと考えている。

(副会長)

総務省の資料によると、外部人材を活用するための資金として、最大700万円の補助があるとのことだが、活用は考えているか。

(事務局)

外部の人材活用は今のところ、考えていない。

(会長)

この地域ならではの地域特性を反映したビジョンの策定が望まれる。

(会長)

その他に、何か意見・提言等があれば、お願いしたい。

(委員)

高松港から海上ルートで、屋島、庵治、志度に行く、或いは豊島や小豆島まで足が延ばせるようなルートの提言や外国からの観光客に対する魅力ある観光ルートの提案を出してもらいたい。

(委員)

アンケート結果は非常によく現状を捉えているところがある。人材確保が難しいということと、地域としての市場規模の縮小についての2点である。

事業案のなかで、交通アクセスの向上と女性高齢者等の社会人の学び直し支援、外国人留学生等と地域住民との交流推進は、重要な取組であると考ええる。

(委員)

事業案に示される取組についてのみ検討していくのか。

(事務局)

事業案は国が示した枠組みから考えた例示であり、ここにはない事業を追加することも可能である。

(委員)

アンケートの結果から、人材確保に課題が示されているにも関わらず、事業案には、その取組が少ないのではないか。

(事務局)

アンケートの結果を分析し、施策・事業を考えていくべきだが、そこまで進んでいないというのが実情である。

連携中枢の新しい柱として示された、経済成長のけん引と都市機能の集積に対応するためには、まず雇用を増やすことが大切と考え、地域の事業者のニーズを把握するためにアンケート調査を実施した。

人材の育成や確保に関しても、連携事業として、事業者が行政に期待する部分をフォローしていきたいと考えているので、当懇談会では、その点についても御意見をいただきたい。

(委員)

さぬき市や東かがわ市について、一般の高松市民が知らない魅力がたく

さんあると思う。圏域内の循環を高める施策があればよい。

(委員)

連携事業のメニューが数多く提起されているが、優先順位をつけてはどうか。

(委員)

高齢者対応として、さらに公共交通の利用促進をお願いしたい。また、新病院が連携中枢都市圏を代表する病院となってほしい。

(委員)

公共交通対策について、高齢者への取組は評価しているが、観光客に対する取組については印象が薄い。

(委員)

竹が豊富な地域があり、以前から、竹を利用して何かできないだろうかと思うことがある。

(委員)

県の事業と重複する部分が大いかもしれないが、中枢機能の持っているシーズを生かして、中小企業の成長戦略を描いていくような具体案を示せればと考えている。

(会長)

経済成長のけん引を考えると、今後、どのような業種が成長のエンジンとなるかをしっかりと検討して、支援する対象を選定すべきである。

また、都市機能の集積を考えると、行政的な機能と、経済的な機能と、文化的な機能という、3つの側面が考えられるが、高松市の場合、行政的な面は強いが、経済的な面と文化的な面が総じて弱いといえる。そのなかでも特に文化的な機能面の強化を検討すべきではないか。

(副会長)

各市町のコアとなっている企業に、圏域全体の経済をけん引する事業等を提案してもらい、そこに関連企業をつなぐ支援を考えてはどうか。

また、空の便を利用した場合の東京へのアクセスの良さは、観光戦略を考える上で、長所の1つである。

さらに、住環境の条件が非常に良い地域であり、C C R Cの導入なども検討してはどうかという点と、財政普通交付税、特別交付税の活用も期待できる。

(会長)

柔軟な発想で新たな提案をして頂き、全国から注目される地域特性の顕在化に努めていければと思う。

(会長)

議題(3)その他について、事務局から何かあるか。

【今後のスケジュールについて事務局から説明】

(会長)

本日の会はこれをもって終了する。